

# 時代を 越えて 息づく思い。

遙かむかしからそこに佇む野仏。  
祈りの心を今に伝える伝統芸能。  
村の歴史をつづる史跡の数々…。  
これら先人と私たちとを結ぶ大切な文化遺産を守り、後世に伝えながら、  
私たちは、鮫川のまた新たな歴史と文化を生みだしていきます。

森 羅 万 象  
S A M E G A W A

数か月後、夫婦はいくちたっても病気がよくならないので、あの大石のたたりにはちがいないと、自分たちのしたことをふかしくい、なみだをながし大石にゆるしを言いました。すると、「きよめてくれー。酒で洗つてくれー。」と、大石の声がかきこえました。夫婦は、いわれたように酒をよういし、心をこめて、大石をすつかりと酒で洗いきよめると、痛みはなくなり、病気はまもなくなおつてしまいました。それからは、この夫婦はまじめになり、酒もぶつりとやめて、毎日この大石を酒で洗いきよめるのを日課としたそうです。

この高さ五メートル、幅六メートル、重さ約百八十トンの大石は、村の人から取上石とよばれるようになり、子供のできない夫婦は二人そろって酒で大石を洗うと、子供ができるといわれるようになりました。また、お座の前に、取上石をさするとなん産からのがれられるとも、いわれるようになりました。

そして、いまでも、田植えの前になると、おみきと赤まんまをおそなえし、安産と五穀豊じようを願い、おいのりしているそうです。